

震災後に 増える？ 減る？

宮城と岩手の海で何が

東日本大震災の発生から間もなく7年。この間、「海が変わった」という声を漁業者から聞く機会が増えてきた。海洋環境の長期トレンドや地球温暖化のほかに、三陸沿岸では震災の影響も唱えられるが、実際にはこれらに加え、さまざまな要素が絡み合っていると推測されている。サンマやスルメイカ、秋サケといった高度回遊魚のほかに、宮城・岩手両県では、前浜に住む魚介類にも変化が大きい。

現実、課題、将来

震災から7年
そして今

被災後、裏目な海況 稚貝流失、成長鈍化

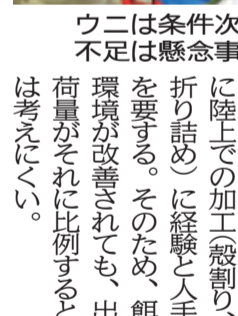
岩手 アワビ

震災による津波とその後の海水温の変化は、三多くが流失してしまっ
陸沿岸のアワビに逆風だ。岩陰にどまり、難
った。浮遊幼生期を終え、を逃れた個体もあるが、
着底した稚貝は付着力が、海況によってこのサイ
弱。殻長4cm以下の1サイズの稚貝が95%減ったと
種苗放流が中断、縮小、



震災による津波とその後の海水温の変化は、三多くが流失してしまっ
陸沿岸のアワビに逆風だ。岩陰にどまり、難
った。浮遊幼生期を終え、を逃れた個体もあるが、
着底した稚貝は付着力が、海況によってこのサイ
弱。殻長4cm以下の1サイズの稚貝が95%減ったと
種苗放流が中断、縮小、

歯車が狂ってしまったアワビ
以前の放流個数を確保できな
海の中のアワビ資源量がアワビの適居年と
は明らかに減少し、年級とアワビの成
この生歯数にも、い冬季に水温が下がり
つぎを生じたと考えられない。アワビや
の話を聞かずに、コン然的に出荷サイ
ただ、単に「この数年アワビの成
間が少ない」というならば、その期間を
元に戻るはず。アワビの漁獲量が全
岩手県の場合、成長のよい年ならは
荷サイの間に運ぶ。アワビの漁獲量が
が、岩手県水産技術センターは「漁獲
系のアワビと親潮の冷水には、密接な
二陸沖のアワビと親潮の冷水には、密
係がある。冬季に親潮が沿岸域に接すると、当
歳貝の死亡率は一気に上がる。低水温に耐性の低
稚貝は付着力が落ち、流失すると推測される。



ウニは条件次第で急増するが、加工の人手不足は懸念事項だ

ウニは条件次第で急増するが、加工の人手不足は懸念事項だ

一般社団法人 大日本水産会
会長 白須敏朗
〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル
電話 03-3585-6681
FAX 03-3582-2337

東京海洋大学
学長 長竹内俊郎
〒106-8477 東京都港区港南四丁目五番七号
電話 03(35471111)040000



豊漁マダコ、岩手にも恩恵



17年に特異的に増えたマダコ

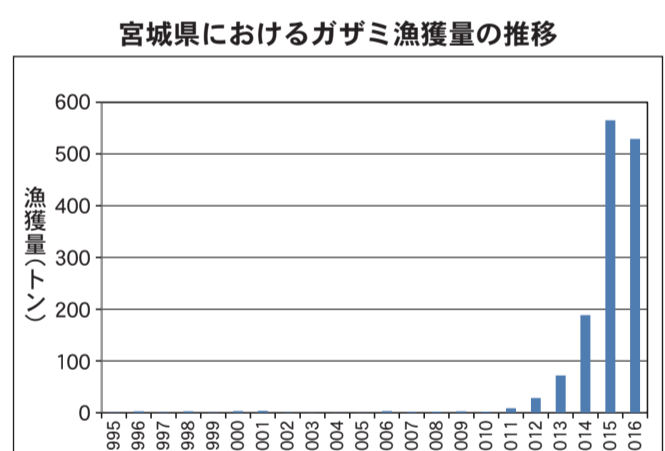
宮城県の南三陸や石巻沿17年春に生まれた稚マダコは、1日をヒクに漁獲が
岸では、60年ぶりともいわ、同年冬の親潮の影響が弱く増加。岩手県水産情報配
れるマダコの大豊漁に沸いたこと、春の北暖水システム「いわて大漁」
。急激な増加は牡蠣半島に流れ岩手沖まで分布した。17年に54.9%
。以北で顕著に現れ、岩手県でも高い生残率をみせた。岩手県水産技術
でも同様な傾向がみられ、7月から漁獲が始まり、秋センターは、「この傾向は
以降の水温低下も緩やかに、暖水塊の勢力が弱かった16
暖水性種のマダコだが、つたことで南下回遊が遅年から現れていた」と話
したという。成長しても付着力が弱い生物のためか、津波で多くが流された可能性もある。ヒトの生息域にマダコがほとんども考察できる。同センターは「あくまでも個々に得られたデータからの推測であり、それがリンクしてない」と話す。ただ震災前は仙台湾で拡大しているのは間違いない。半面、魚種の変化や特異的な増加で、餌の競争による影響も示唆され

宮城 ガザミ 生息適地の拡大が 全国1位に急成長

宮城県沿岸では2017年まで急増。同年は21年ぶりに増加した。3年
からヒラメの漁獲量200tだった全国の漁獲量、ガザミの漁獲量は
が増加し、現在も高い水産物の実収量を占める。固定網の許可数
準にある。震災後の漁獲量も全国1位になった。震災後に半減して
圧低下や再生産成功率の低下、林産省・海面漁業産量調査によ
高き、資源管理の効果も統計調査から読み取れる。だが同じ理
風だけで説明が難しい。16年は微減したがほぼ同レベルにあり、
いぼく、ガザミ(ワタリ)新水産行政情報システム「技術総合セ
ガザミ」の増加は著しい。のデータによると、17年の結果、震災前
宮城県でガザミの漁獲量は716t(概算)で、仙台湾の海底には全
量は震災前の10年に2.3倍に増加していた。隔年で組成に大きな変化はな
だったが、15年に51.8倍あるいは一過性の急増で、沿岸を中心に、局



急増中の仙台湾ガザミ



宮城県におけるガザミ漁獲量の推移

出典:宮城県新水産行政情報システム

一般社団法人 全国いか釣り漁業協会
会長 長川口恭一
〒107-0052 東京都港区赤坂一丁目九番一三
電話 03(3585)4737
http://www.jakatsuri.or.jp/

日本かつおまぐろ漁業協同組合
代表理事 岸 宏
〒135-0044 東京都江東区永代二丁目三番一
電話 03(3564)6100
FAX 03(3564)6101

理研ビタミン株式会社
これまでになかった海産物の力や楽しみ方を
未来に向けて発信していきます。
〒101-8370 東京都千代田区神田三崎町2-9-18 TEL 03-5275-5111

全国漁業共済組合連合会
会長 西田晴征
副会長 宮原淳一
副会長 福原正純
〒101-0047 東京都千代田区内神田1-1-12 (コープビル内)
電話 03(3294)9651 (代表)
http://www.gyosai.or.jp

JF 全国共済水産業協同組合連合会
代表理事 川端 勲
〒101-0047 東京都千代田区内神田1-1-12 (コープビル)
TEL 03-3294-9641

JF 全国漁業協同組合連合会
代表理事 岸 宏
〒101-8503 東京都千代田区内神田1-1-12 コープビル7階
電話 03(3294)9611
http://www.zengyoren.or.jp

東日本 大震災 7年